

目標：地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。

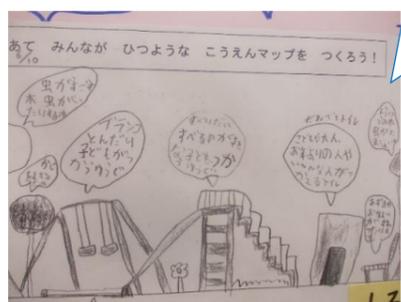
I 情報収集・分析・問題把握(気付く)

- ①通学路の赤・黄・青コースにどんなものがあるのか、発表する。
- ②探検してみたいところを考え、探検計画を立て、家の人と探検をする。
- ③探検して見つけたもの、気付いたことを発表し合う。
- ④赤青黄色コースの共通点を探す。

→どのコースにも公園があることに気づき、公園について「誰のために、何のために」必要なか考え。話し合う中で出てきた疑問について、昭島市役所公園管理課の細谷さんに質問する。

④まずは自分の理想の公園マップを作る。(自分の好きなものがいっぱい)

⑤昭島市役所公園管理課の細谷さんに、公園は誰のため、何のためにあるのか、話を聞く。



⑤公園は自分たちのためだけのものではないことに気づき、今度は、「みんなに必要な公園マップ」を作る。「お年寄り・小さい子・車いすの人・虫や生き物」など大切なキーワードが出るようになった。

II 追究する(調べる)

- ⑥一人一人が「みんなに必要な公園マップ」を作成し、友達と交流し、公園に必要なものについて話し合う。
- ⑦グループに分かれて、みんなに必要な公園マップを作成する。「どうして公園にベンチやだれでもトイレが必要なのか。」という理由を明らかにし、話し合いながら公園に何を置くかを決める。

⑥虫が生きることのできる木を育てたいな。観察もしたい。



⑥小さい子が遊ぶことのできる遊具があるといいな。お年寄りが休むベンチも必要だね。



⑦大人もお年寄りも小さい子も健康になれる運動公園を作ろう。

III 整理する

- ⑧地域清掃で4丁目公園に行き、ごみ拾いや遊具を清掃する中で新たな気づきを得る。
- ⑨地域清掃で気付いたことも加えて公園マップにまとめる。

SDGs11, 18の視点…



⑩公園を使うためのルールを書いた看板が必要だね。壊れた遊具を直す人がいたらいいな。

⑩グループごとに理想の公園について発表する。発表後に、「みんなに必要な公園」というだけでなく、「5年先も、10年先もこの公園を使い続けるにはどうしたらいいか」という新たな課題を設定し、考える。

自分たちでできること：遊具やベンチなどの清掃、ごみ拾い・公園のルールの看板の設置、呼びかけ 他の人に頼むこと：遊具やベンチ等の点検・芝生や植栽の手入れなど

IV 表現する

- ⑪持続可能な公園作りをするための工夫をグループごとに発表する。

自分たちでできることと、できないことがあるね。



お掃除や花壇の水やり、ゴミ拾いはできるよ。



壊れた遊具の修理は業者さんをお願いしないといけないね。

- ⑫最後に、作成した公園マップを昭島市役所公園管理課の細谷さんに見せ、ビデオでメッセージをいただきました。

2年生のみなさんが、町のみんなのことを考えてよりよい公園にするための工夫を書いてくれて嬉しかったです。



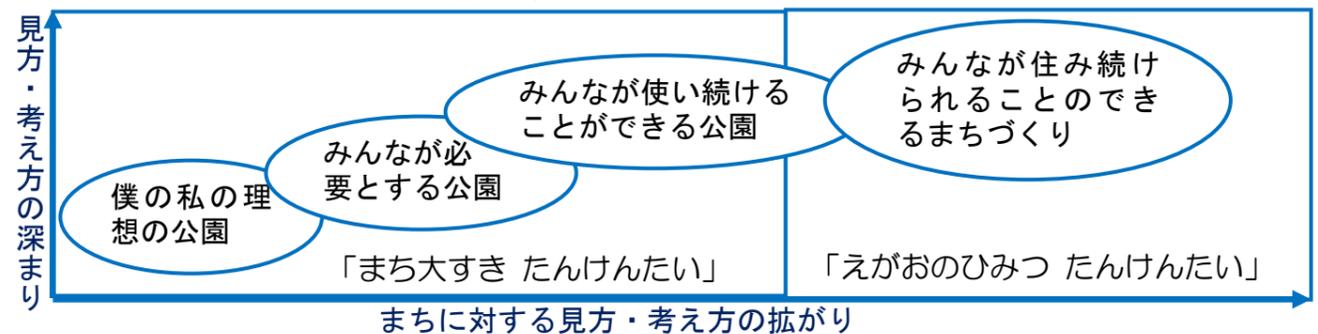
夏休みにお家の人と掃除に行こうかな。

普段から公園をきれいに、大切に使うことも大事だね。

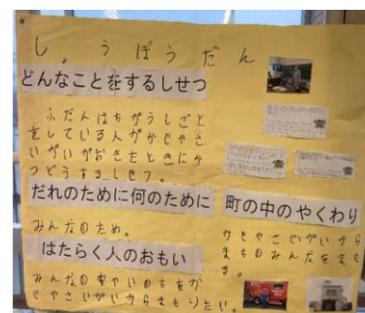
えがお たんけんたい

目標：地域の多様な場所や人々に関わる活動や、身近な人々と伝え合う活動を通して、地域の人々と自分たちの生活との関わりや、公共物のよさや働きをとらえ、身近な人々とかかわるよさや楽しさがわかり、地域に親しみや愛着をもち、すすんで触れ合い交流することや、適切に接したり安全に生活したりすることができるようにする。

▷児童の見方・考え方の変容(単元構成)



昭島市にある9つの施設について、「どんなことをする施設」「誰のために何のために」「町の中の役割」「働く人の思い」の4つの視点で調べた。模造紙にまとめた。



町の模型を作り、この町に住み続けるためには、何が必要か、大切に考え話し合い、大きな模造紙に「みんなが住み続けられる町」の模型を作って発表した。